

氏 名：手塚 園江

学 位 の 種 類：博士（看護学）

学 位 記 番 号：甲第 248

学位授与年月日：2024 年 3 月 8 日

学位授与の要件：学位規則第 5 条第 1 項該当

論文審査委員：主査 中田 諭（聖路加国際大学 准教授）

副査 木下 康仁（聖路加国際大学 教授）

副査 小林 京子（聖路加国際大学 教授）

副査 熊谷 秀規（自治医科大学 小児科学講座 教授）

論 文 題 目：小児集中治療室における患者と家族中心の End-of-Life ケアの基盤となる親
－看護師のパートナーシップによる協働

博士論文審査結果

本研究の問いは、小児集中治療領域における End-of-Life の文脈において、立場の異なる親と看護師の対等な関係性であるパートナーシップによる協働が成り立つための諸性質とは何かであり、研究目的は、小児集中治療領域における患者・家族中心の End-of-Life Care における親・看護師のパートナーシップによる協働のプロセスを明らかにすることであった。

研究方法は、小児集中治療領域の勤務経験のある看護師 14 名を対象に半構造的面接を行い、M-GTA を用いて、分析焦点者を「小児集中治療に携わる看護師」、分析テーマを「小児集中治療室の看護師による End-of-Life の子どもの親への途切れない働きかけの連鎖のプロセス」として概念生成と結果図およびストーリーラインを作成した。また、研究の問いに対して、批判的実在論の手法を用いて、パートナーシップによる協働が成り立つための諸性質とは何かを推論し解釈を検討した。

分析の結果、PICU の看護師による End-of-Life の子どもの親への途切れない働きかけの連鎖のプロセスは、《親の認識や価値観に関する探索的な情報収集》から始まるプロセスであり、《親が子どもを実感できる介入》を並行し、《子ども最善の流動的なケア選択》による【子どもへのケアの目標の着地点】を目指すという、親と看護師のパートナーシップ形成と、子どもへのケアの流動的な協力関係による協働のプロセスであるとした。

また、研究の問いである PICU の End-of-Life における親と看護師のパートナーシップによる協働について 3 つの構成要素を見出し、両者の関係は互いの限られた場での経験を最良のものにしようと志向する即時的で流動的な関係であるとした。

審査委員からは次の点について指摘がなされ、修正が求められた。

1. 研究目的に対し何が明らかになったかの結論を明確に記述し、そのための分析焦点者の視点を考慮した概念名やカテゴリー名と結果図ならびにストーリーラインの再検討
2. 研究目的の「親・看護師のパートナーシップによる協働のプロセス」に対して、分析テーマを「親への途切れない働きかけの連鎖のプロセス」とした理由と関連が理解できる説明の追加
3. 「途切れない働きかけの連鎖のプロセス」の考察において「なぜ働きかけが途切れないのか」「なぜ連鎖なのか」についての考察の追加
4. 結果・考察の本文の推敲ならびに、論文の体裁、表現・表記の修正

これらの指摘に対し、再提出された論文において、適切に修正がなされたことを審査委員全員が確認した。

本研究は、重篤な小児の最後の治療・救命の砦であると同時に end-of-life という逆説的な場において生じている複雑で変容する動的な現象を、俯瞰した視点で繙いた研究である。文献検討と予備研究による成果を踏まえ、豊かなデータと論理的で熟慮した分析によって、PICU における end-of-life という状況下で営まれる看護師・親の間の協働のプロセスと要素を見出した点に独自性・新規性が認められた。この論文の知見は PICU のみならず end-of-life における実践の発展やケアの向上に貢献する点と、熱意と真摯的な姿勢で研究に取り組まれた点が高く評価された。

以上により、本論文は、本学学位規程第 5 条に定める博士（看護学）の学位を授与することに値するものであり、申請者は看護学における研究活動を自立して行うことに必要な高度な研究能力と豊かな学識を有すると認め、論文審査ならびに最終試験に合格と判定する。